菅家系圖

單

H 20
467

菅家高橋家系図

菅氏

黒瀬格一寫

福田禄太郎朱記

菅浪ノ家モト畠山氏也中世菅神ヲ信仰シテ瑞夢ニヨリテ菅浪ト改ム畠山某足利義昭公ニ従ヒテ備后ニ來足利公一先帰洛ノ時尾道ニ留リテ市人トナル福嶋丹波神辺ニ城代セシ時コレニヨリテ神辺ニ來住シテ尾道座ト称ス姓名年代尾道座ニクハシク記シシモノアリ後ニ丹波カ壻トナルユヘ丹波去ルヰ諸

東京帝國大學圖書之印
B 23475
000432826 6

物及城内ノ黑本尊ト云佛等ヲコレノ家ニノコシ佛像ハ今万念寺ニアリ福嶋ハモト山瀬久之丞ト云人福嶋正則ノ家老トナリ姓名ヲ賜ハル後神辺城ヲアツカル山瀬イウクノ人カ未

考云

畠山氏ハ旧友ナリシヨシ也

縄按ニ

山瀬久之丞ヲ北越軍記ニ山路ト書キテアリ神辺城主ハ福嶋彌右衛門後ニ丹波守ト改ムトアリ山路久之丞ハ佐々木高綱ノ子

10 高知堂製

孫ノ由岐阜落城ノ時大功アリ後備後東條城主トナリ一万六千石ヲ食ス長尾隼正一勝ト称スル由然バ山瀬久之丞トハ人違フカ

系図

菅波（浪）久次郎包好

尾道屋ヨリ別家シテ川北村里正トナリ屋號ヲ本荘屋ト云 初ハ水野家敗去ノ後本荘村ニ暫ク滞留アリソノ後ニ神辺ヘカ

ヘルユヱ諸人ヨリ此屋ヲ稱ス諡ヲ休二居士ト云

女子 名下菅村内海三郎右衛門室

久次郎包貞 居士ノ嫡子ニテ家ヲツグ

妻ハ備中井原佐藤ノ女子ナシ

弟吉郎兵衛別家シテ川北里正ヲ襲ク三弟元右衛門平野ニ別家ス

吉郎右衛門 吉郎兵衛ノ後ハ中屋元

元右衛門 右衛門ノ後ハ信屋也

10 高知堂製

女子 ハシメ備中吉井藤井只右衛門ニ嫁シノチニ常村彦妙ニユク

養助好永 妻ハ内海三郎右衛門ノ女

包貞君子ナシ姉ノ子備中吉井村藤井氏ヲ嗣トス三十二ニテ卒ス子ナシ一女夭ス高橋金右衛門弟子亀松トイフヲ養子トスコレ新

宅ノ祖也後改ニ兵部
久四郎好殷　菅波内海氏ノ子本家ヲ嗣
内海政右衛門嫡子妻ハ菅波元右衛門女
久助扶好　幼名亀松老テ標平ト云
妻ハ備中井原佐藤　養女君卒後レハラク本家
氏ノ女ツノ母ハ神辺尾　ヲタモツ内海氏ノ子久四郎好
道屋源七ノ女也佐藤　殷ハ包貴ノ姉ノ孫也コレニ
氏三男三女長ハ太中　本家ヲツカシメテ標平ハ

次ハ猶右衛門次ハ圭二　別家スコノトキ久助ヲ兄
長女タキ夭ス次ハチヨ　トシ久四郎ヲ弟トシテカヲ
井上源右衛門ニユク次　アハセ家ヲ守護スベキヨシ包
ハマツ笠岡生長氏ニ　貴君ヨリ命セラル標平
ユキ男子アリノチ荒　君年スクナキユヱカタク
木市郎兵衛ニユク　辞シテ弟トナル
喜太郎、太仲、トキ仲、字礼卿、称菅氏
太中晋帥　卒年八十　標平君ノ長子医トナリ
妻ハ内海氏　サキタチ　テ家ヲツキ四十餘ニテ弟
卒ス　継室門田氏　圭二ニユヅリ隠居ス十年

タキ　虚弱十七才而夭

汝梗、汝梗、楠之、子楠、好徑
猶右衛門汝楠
チ直
マヽ
卒年三十一　天明元年八月廿五日卒

圭二　晋宝
卒年三十三
妻ハ山南桑田氏
ノ女一女アリ名ヲマ
キト云夭ス

長作　万年

前ヨリ人ニ托シテ酒造ヲナ
サシム
家ヲシハラクタモチ酒造ヲ
ナスコト数年姪長作ニユ
ツリテ京ニユク儒業トナリ
卒年三十三
太中弟猶右衛門汝梗深

10 高知堂製

卒年三十九
妻ハ井上源右衛門ノ女
某一女ルイト云夭ス
継室妹名ハ敬　三男
アリ長ハ喜太郎次ハ
晋二トモニ夭ス　ソノ
次晋三

女子　諱類　早世

五 喜太郎　早世年六才

津村松岡氏ノ養子トナリ
ソレカウミタル子也酒造ハ
江原カ場ヲ借テナシヽニ江
原カヘセト云ニヨリテ福山
鍵屋ヲカリテ醸シソノ
後酒株ヲ買テ自宅ニテ
造ス文化四年十二月十八日
夜大風大火ニテ焼亡スユヘニ
医トナリ爲ナス年三十九
済治、養助、公寿、金粟園、文腐、

菅二郎 早世二歳

三郎 太中養子トナリ
家ヲ嗣ク

三郎惟綱

女子 名遍 早世

駒吉 早世

女子 早世

太三郎 早世

晋賢（ノニカタ）
妻ハ備中矢掛高草
寛叟長女ナリ
病十餘年、大正五年九月歿、

女子 名ミサ

礼太郎
妻（備前）岡山縣御津郡鹿
田村三宅武彦女ナリ

幼名五松一曰梅五郎字景陶
号柳園一曰柳门福山藩
吉田晃佐（茶山維室妹孫也）四男ナリ来テ
三郎養子トナル（寛斎五子也、長直太郎夫、）
晋賢養子文二郎ノ妻ト
ナリタルモ早世ナレバ備前
天城中嶋維三郎ヘ嫁ス
大正五年七十五六歳歿、
礼太郎廣嶋高等師範學校理學士、
數學教授、

ミサ夫
晋賢長兄門田重長、号杉東、文二郎其第二子也、

文二郎

卒年三十四

妻ノ家女ナリ

福山藩士門田重長二男ヲ
養子トナシ晋賢女ミサノ
婿トス
文二郎歿後、ミサ嫁備前天
城中嶌維三郎

女子 名シゲ

安藝郡仁保嶋村金井半

女子 名クニコ

右ノ長男半へ嫁ス

女子 名静子

雙三郡八次村田辺昇一二

女子 名桂子

男操ニ嫁ス

10 高知堂製

好雄

高橋氏

此氏日本ニ五流アリ此ハ大蔵春實ヨリ出テ筑後ニアリソノ地名ヲ氏トスモト漢帝ヨリ出タルユヱ家紋唐人ノ笠也系図ハ諸書ニクハシケレハ略ス

高橋石見守金利

毛利家ノ幕下ニ属ス下鴨ノ小ノ山ニ塢ス然ルニ小ノハ宮某カ塢也アルヒハソノ人亡滅ノ後コレヲ守リタルナラン家ノ系図幸右衛門関東ニ

持参シテ印ニノコラス詳ナリカタシ

權右衛門

石見守ノ子カ姪弟カ詳ナラスモ利家国替ノ後
大坂ニツカヘテ五月七日落城ノ際ニ打死ス事諸
軍記ニ詳也福山藩士下宮氏家ニ曰大坂夏
ノ役ニ真田幸村ノ手ノ侍大將高橋權右衛門
ヲ玉造稲荷社前ニテ打取高名ストアリ

養長法印

明暦四年戊戌二月十六日卒權右衛門ノ子カ
弟カ大坂籠城ノ人ノ子弟世ニ憚アリテ修験
トナル

儀右衛門余保

寛永年中大坂籠城人ノ子孫諸國ニ仕フルコト
ユルサレシニヨリ法印世人ヲツレテ筑後柳河ニユキ
奉公ヲ望ム立花宗茂モト高橋ト同姓ニテ權
右衛門ノ比マテハ時ニ音問モアリシ故也コレニヨ
リテ立花侯ハ客トシヤシナハントゆ仰ラレシカ𪜈
老臣ウケカハス然𪜈格禄低カラサレハ召ツカヒ
タキヨシ聞エケレバ一門ノ好ミトテハルヽ來リ
下僚ニアランハ恥也オナシクハ他國ニ仕ヘンコト

然ルヘシト議シテ同シク帰ラル水野侯福山ニ
オハセシ時ナレハ其ヨシヲキキ玉ヒ此地ニ代々住
シタルモノナレバ先代官ヲハツトメヨ後マタ致シカタ
アラント仰ラレ八十石ヲ給ウテ深津小田二郡
ノ代官トシテ備中有田村ニ移居ス屋敷ノ
アト道ノ北ノ山下ニアリコノ時笠岡ノ繁栄尾
道ニコエテ治難トキコエシモヨク安輯スト云
瀬溝ノ天神ノ祠ハコノ時再建アリ鳥居ハ
代官一人トシテ建ツソハ珍木ニテ名ツケカタキ
材ナリトイヒ傳フレドモ天香樹ナラントミユ水野

落去ノ後神辺ニ隠居ス妻阿繁翌春
黒田豊前日向守内福田清兵衛ニ再嫁
一女阿倉ヲ連行阿倉幸右衛門死スル同
月二十四日ニ生ル酒井氏ニ嫁スル人此阿倉
カ高橋ハ氏位牌ノ裏ニ云宝永六年己
丑正月十四日病卒于結城葬于浄土宗
弘経寺墓也備後高橋幸右衛門墓ト
書キアル由法名諦窓覚真信士
幸右衛門儀右衛門ノ子也
水野ノ家結城ニテ跡目立玉フ時結城ニツ

カフ男子ナク女子一人アリ結城侯ヨリ命セラ
レテ酒井九郎右衛門ト云人ノ妻トナルト云

幸太夫　享保二年丁酉十一月廿三日卒年ノ五
十三　来名光徳寺内信楽院ニ葬ル法
名載岩智撲信士　水野侯ノアトヘ松平下
総侯来リ玉フ幸太夫ソレニ仕ヘテ伊藝来
名ニシタカヒユク国丸ヘノ外子ナシ

女子　梁瀬村ニ嫁ス

某　手城村某カ養子トナル ソノ子嘉一郎
水呑村倉田氏ノ養子トナリテ別居スソノ

10 高知堂製

女ハ菅波元右衛門子久六妻也

金右衛門金豊
神辺ニテ農トナル妻占部氏慎庵ヲ生綖
室小林氏幸女久助ヲウム小林氏ハ浄光
寺也

慎庵　克昭
医トナリ福山ニ住セシノチニ神辺ニカヘリ家ヲ
ツグ子三人 長ハ尚庵家ヲツギ次子敬蔵
大坂ニテ没ス三子杏庵 尚庵子ナキユヘ
アトヲツグ

幸父
尾道ニユキ賈トナル子一人アリコレモ幸父
ト云死シテ後ナシ
久助 扶好 曰第四子
菅波氏ニ養子 号檸平 トナリシハラクノ本家ヲモ
チテノチ別家スソノ家ヲ新宅ト云妻
ハ備中井原佐藤安右衛門女 正弘 太中以下
六子アリ卒年六十五 寛政三年二月十八日卒

太中 晋卿
卒年八十妻ハ内海氏先歿シテ子ナシ繼

高知堂製

室門田氏 モンデン ハ安那郡西法寺村門田傳内
正峰ノ嫡女也ソノ母ハ 正峰妻 福山藩士杉原 ※※

女子 多キ
幼ヨリ病多ク十七歳ニシテ没ス

成

猶右衛門汝楩 天明元年辛丑八月廿五日卒
字子楠一曰好澄(妹尾政五郎二男文化三
丙寅十二月廿九日卒年七十九 佛号白鉄
山廣道信士)深津村松岡廣八都住ノ
養子トナル都住ハモト中津原村妹尾氏
ヨリ来リテ松岡ヲツグ(諱ハ喜能 政五郎カ)

深津松岡氏ニ養子ニユク妻松岡氏一子
アリ長作ハ万年也来リテ新宅ヲ嗣卒
年五十二
女子チヨ 卒年五十二
早戸村井上氏ニユク男子ハ藤九郎雅（維）
別次ハ土五郎 女子ハ田嶋田頭氏ニユク
次女呉服養介カ妻トナリ一女アリテ卒スソノ
次女ケウ養介カ妻トナル同人ニ男子アリ國
松ト云女子ハ藤江村山路氏ニ嫁ス
女子マツ 卒年六十九才

十三
笠岡生長平藏政策俳名湖嵐ニユキ一
女一男女ハ夭ス男ハ淺右衛門政秀ト云
マツ夫ニオクレ帰リテ千田荒木市郎右衛
義矩ヘユク名ミツヲミツト改ム
圭次 晋宝
妻ハ粟田氏一女アリ夭ス圭次家ヲツギ
後養介ニユワリテ京住儒者トナリ卒ス
年三十二
養助 万年 字公寿卒年三十九
猶右衛門カ一子也来リテ新宅ヲツグ妻

ハ井上源右衛門正信女 サホ一女ヲ生テ卒
ス次女ケウ繼室トナリ三男アリ長ハ喜
太郎次ハ菅二郎皆夭ス次ハ菅三後
改三郎

妹出 女子 名類 早世 閲月死

字昭叔、良庵、自牧齋、歿年五十一、藤陰銘之、

妹出 喜太郎 生六七病痘死

菅二郎 生二歳病痘死

三郎 太中ノ養子トナル

三郎惟繩 字 幼名菅三 妻尾道岡田与三平女

○陶然

女子 名通 病痘死甫三歳

駒吉 病痘死甫二弌

女子 天保丁酉六月三日生五日死

太三郎 天保戊戌七月九日生己亥九月十五日病驚風不起甫二弌

晋賢 福山藩門田朴翁四子来テ養子トナル

必一ノ年歿後、敬嫁小條讓四郎、有二女夭、讓四郎嗣子、本
河村氏、名退、字進之、号悔庵、通稱進輔、○進之妻
藤江村山路利兵衛女、弘化四年五月四日歿、年三十三、
藤陰銘之、○山路氏生一女、次一男、名念祖、

※※晋師纒室門田氏妹嫁百谷村山手八右衛門、八右歿後、将一子帰、名重鄰防、号朴齋、通稱寿佐、少時在茶山許、後仕福山侯、別成家、

樗平翁墓碑文

樗平翁諱扶好、稱久助、樗平其姓號、本姓高橋氏、遠祖曰大藏春實、天慶中西討豫賊純友有功、其裔散居筑紫、在筑後者為高橋氏、相傳其先出於後漢獻帝之冑云、高祖權右衛門為備後鴨村塢主、元和元年五月七日殉大坂之難、曾大曾父長養、匿跡為道士、大父儀右衛門余保、仕於福山侯水野氏為郡宰、會國除、退隱神邊驛、父金右衛門金豐、母小林氏、有四子、

翁其季也、出經菅波氏、配佐藤氏、生
三男三女、以享保丁亥生、寛政三年辛亥
二月十八日歿、年六十有五、
樗牛翁之妻佐藤氏、備中井原村佐藤
正弘之女、年十四、養於菅波氏、菅波氏
又養高橋氏之子為子、為之配、是為樗
平翁、時年十六、

菅家過古帳

一 法性院通譽樗牛居士　菅波久助扶好
寛政三年辛亥二月十八日
帰各本家ノ墓ノ内ニアリ傍ニ碑アリテ事ヲ詳ニ
西山先生ノ文頼弥太郎維完書

一 貞光院明譽理映大姉　菅波久助妻
寛政八年丙辰二月朔日　佐藤氏諱半
碑ハ前ノト同断ニ　文モ之モ弥太郎維完ニ
父ハ備中井原村佐藤安右衛門正弘
母ハ菅波源七通方ノ女

一義應妙麗閑信女　菅波久助娘
明和三丙戌七月九日　灘女　年十六歳

一清華容貞信女　菅太中妻　内海氏
天明二年壬寅二月十七日　諱為
歳二十三

一後菅圭二居士　菅圭二晋傑
寛政十二年庚申八月二十七日
墓在京都鳥部山備後菅圭二墓トシルス後三面ニ長
キ文アリ頼久太郎襄撰并書

墓所掃除料百銭鳥部山花屋長兵衛ヘ遣ス京
四條寺町大雲寺上人近親是又毎年也
妻ハ中山南村亀山ト云家ニテ初代ヨリ五代目ノ人ハ由
兼田儀右衛門矩和女　諱ハ阿谷母ハ鞆三好与左
衛女　福城下佐土屋ト云家ナリ
圭二先生死後大歸セシム　女子一人アリ阿萬喜ナリ

一性蓉童女　菅圭二娘　萬喜
寛政九年丁巳八月晦日

一榮光院俊相知映大姉　菅波喜良助妻

寛政十一年己未五月三十日　井上氏 右傍

甲戸村井上隣右エ門正信次二女　寛政九年丁巳閏

七月嫁

一春容童子　菅波喜助娘類

寛政十一年己未二月廿六日

一賢光童子　同人長子喜太郎

文化己巳三月朔日

一明珠童子　同人二子菅二郎

文化六年己巳二月廿六日

一文齋院大千公壽居士　菅波長作 喜介改名

文化八年辛未七月廿九日　名萬年字公壽

天保十四年辛卯三十三回忌ニ付文齋院ヲ贈ル文海梗

深津村松岡廣八郁在ノ養子トナル郁在ノ女婿ハ喜能

ニ配シ一子アリ乃至先生ナリ

晋師子ナキニヨリ来リテ菅氏ヲ嗣ク一女三男アリ

一栽玉童女　北條讓四郎嫡女名梅

文政元年寅六月十一日

一歳寒院霞亭弘毅居士　號霞亭

名讓字子讓又昊陽

文政六年癸未八月十七日　北條讓四郎沒於江戸

丸山卯中葬ヲ栄晃
貞性寺碑アリ
頼山陽先生ノ文アリ

北條讓四郎二女
おとら

一 慈忍童子
文政七年甲申八月三日

一 玉華院芳譽貞洲大姉 文化丁丑六十一歳（川條東）
文政九年丙戌五月十九日 七十歳
宝暦七年生
菅太中継室
門田氏諱宣

一 寛裕院廣譽文恭居士
文政十年丁亥八月十三日
菅太中
名晋帥字禮卿号茶山

一 露敏童子
天保六年乙未十月二十七日
菅三郎嫡女
阿通

一 短壽童子
天保六年乙未十二月二日
菅三郎長男
お通ガ駒吉

一 麗仙童子
天保十年己亥九月十五日
菅三郎次男
太三郎

一 後彫院光譽清淑大姉
嘉永二年己酉八月二十三日卯ノ中刻歿
北條讓四郎室名敬
初菅萬年
ノ継室トナリ三男アリ二男先ニ歿ス三男

扶緝管氏ヲ嗣ノ後北條氏ニ嫁ス
二女アリ皆先ヲ歿ス
早ク桜井上源左衛門正信ノ第三女也年
五十七母ハ檮平先生ノ第二女芳山令翁
ノ第二妹ナリ